

全 体 講 評

「手づくり郷土賞」は、地域の個性、魅力、活力を創出している各種の良質な社会資本を広く発掘し、これを紹介することによって地域づくりの一助とすることを目的に昭和61年度から実施しており、今回で21回目を迎えました。

今年度は、『地域整備部門』『地域活動部門』と昨年度新設した『大賞部門』の3部門について、選定しました。

応募箇所の特徴としては、「地域住民や多様な団体と行政の連携」「自然環境の保全・回復」「ゆとりや憩い・交流の空間の創出」「歴史・文化・産業など地域資源の活用による地域の活性化」などが挙げられます。いずれの箇所も魅力的な地域となっていると感じました。部門毎に見ると、以下のようなことが言えます。

まず、『地域整備部門』では、計画段階から地域住民、行政など多様な主体が連携し、整備後の利用方法を見据えて整備されているものや周辺の自然環境や景観に配慮しているものが多くみられました。その結果、住民による自主的な管理がされており、ゆとりや憩いの空間、また、イベントや交流の空間として積極的に活用されています。社会資本整備を住民と一緒に行うことで、社会資本が地域のシンボルとなり、魅力や活力を生み出す一助となっていることが感じられます。

次に、『地域活動部門』では、住民の創意工夫をこらした活動により、行政や企業との連携を通じて、社会資本を地域資源として有効に活用している箇所がいくつもありました。特に、地域固有の歴史的・文化的な資産を活用した活動は、今後の地域振興を考える上で参考となるものであり、また、自然環境や景観に配慮した活動は、身近な地域資源を見つめ直し、地域の魅力を高め、良好な資産を後世に残していくという点で大変意義あるものです。

最後に、『大賞部門』では、今年度の公募対象が、昭和61年度～平成5年度に「手づくり郷土賞」を受賞した箇所であり、いずれも受賞から13年以上経過していますが、受賞以降も、住民の自主的な工夫をこらした活動により、社会資本が美しく維持されるとともに、活動の発展等により、地域の魅力が更に向上していることに感心しました。

全体を通して、多様な主体の協働による個性的な地域づくりの取り組みが全国的に展開されるに至ったことは、「手づくり郷土賞」の意図していることが定着しつつある証左とも思えます。また、受賞後10年以上経た社会資本の多くが、地域住民等の地道な活動により良好に維持され、地域のシンボルとして愛されていることは、賞を選定する者として、これに勝る喜びはありません。

今後も、多くの活動主体が、協働による社会資本の整備や活用を行い、自らの地域に誇りを持てるような魅力的で活力ある地域をつくっていくことを期待します。そして、手づくり郷土賞がその一助となるとともに、その魅力・活力が周辺地域にも波及し、更なる発展に寄与することができれば幸いです。